

平成26年度 学校自己評価システムシート (県立越谷北高等学校)

目指す学校像	全人教育を目指す進学校として、生徒の人間性を全面的、調和的に発達させ、志を高く持ち、自己実現を図れる人材を育成する
--------	---

重点目標	1 基礎基本の確立と、学習効果を高める授業づくり 2 高い志を醸成し、卒業後も広い視野を持って活躍できる人材を育成する組織的進路指導 3 規律ある生活態度と人権意識を高め、品格ある北高生を育成する生徒指導 4 広く教育活動を発信・公開し、進学校としての評価を高める学校づくり
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	10名
	生徒	6名
	事務局(教職員)	11名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 (2月1日現在)		実 施 日 平 成 2 7 年 2 月 1 6 日	
番 号	現 状 と 課 題	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策	学 校 関 係 者 か ら の 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価
1	<ul style="list-style-type: none"> 本校は、生徒の授業満足度(9割以上)が高く、教科指導や講習を充実させ、全職員が一丸となって熱心に取り組んでいる。 学校での学習や家庭学習を総合的にコーディネートし、学習効果を高める授業づくりを推進することが今後の課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科の指導計画と指導法の工夫・改善を図る。 生徒の自学自習力を向上させる。 学びの個別化・共同化を支援しながら授業力を向上させる。 理数教育の一層の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たに各教科の「学校自己評価シート」を作成し、3年間を見通した指導法を確立する。 各教科の週末課題、小テスト等の調整により、「予習・授業・復習」サイクルを身につけさせる。 体験学習等で個に対する指導の充実を図るとともに、学び合い活動の授業研究を進める。 授業研修週間および日常的な授業見学や校外の授業研究会に参加する。 理数科行事および理数科ネットワーク推進事業の見直し改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校自己評価シート」の活用状況。 学習実態調査。 授業評価アンケートの実施。 授業見学回数や外部セミナー等の参加数。 理数教育充実に係る方策の検討状況。 	<ul style="list-style-type: none"> 模試分析・授業アンケート等を基に各教科の年度評価を行い、全教科が「学校自己評価シート」にまとめることができた。 各学年を中心に教科の宿題等を調整する検討が始まった。また、学習サイクルにおける時間管理の重要性の意識が高まった。 各教科で質問コーナーでの個別指導、グループワーク等による学び合い学習を実施した。 年2回の授業公開週間では全教科で研究授業を実施し、授業研究会を実施した。外部セミナーに年間22名参加した。 今年度 SPP 海洋実習は実施しなかった。次年度理数科ネットワークの見直しを図った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上 難関大を目指す指導の継続 基礎基本を徹底する指導体制(補習等)の構築 各教科で3年間を見通した戦略(センター試験等の分析) 家庭学習の確保 家庭の教育力を高める 「学習記録ノート」の見直し・改善 理数科の充実 SSH申請に向けた条件整備 高大連携による協議会の設定 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの方策が具体的であり、課題解決に向けて着実に実施されている。 小・中学校では言語活動の充実が求められていて実践研修を進めている。高等学校においても生徒の表現力を高める指導方法の改善に今後も取り組んでいくことを期待する。 基礎基本の勉強が必要な生徒にたいしても対応するなど、子供に寄り添った指導を実施していると思うので満足している。
2	<ul style="list-style-type: none"> 従来、進学校として具体的な方針を掲げ、進路指導部が中心になって学校全体で進路指導に取り組んでいる。 これを受けて、さらに進路実績に対する具体的な数値目標を全職員が意識し、組織的な進路指導体制を構築する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の高い志を醸成し、卒業後も活躍できる「学び」の姿勢を身に付けさせる。 難関国立大学の受験者数、国立大学合格者数を増加させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路だよりの発行や、個別面談・進路ガイダンス・講演会等を適切に実施する。 今年度1学年から導入した「学習記録ノート」を有効活用し、丁寧に個別指導を行う。 計画的な平常講習・長期休業中講習を実施する。 進路指導部が主導し、各学年や学習指導委員会と連携して情報交換を行い、方策を検討・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査。 活用状況と学習習慣の変容等の調査。 センター5教科7科目受験率(38%)、難関国立大学受験者数(18名)、国立大学合格者数(68名)の増加。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路だより年40回発行、個別面談2回以上、進路ガイダンス10~20回、進路講演会等を適切に実施した結果、生徒満足度87%を得た。 1学年から導入した「学習記録ノート」は活用が不十分だった。来年度に向けて改良を進めている。 新たに習熟度に合わせた講習や2学年3学期平常講習を開始した。 センター試験後の3学年の難関国立大学志願者19名、国立大学志願者は196名(昨年度から50件増)である。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 第一志望の実現 国立希望者のニーズに応える進路指導体制の充実 こまめな面談や進路講演会等での「志」育成 2020新テスト対策 情報収集と授業改善 保護者へ進路情報の提供 理数科行事の精選 	<ul style="list-style-type: none"> 知名度をさらに上げるために東大現役合格の実績を挙げることを期待している。 進学に向けて積極的に進路指導に取り組んでいる様子が伝わってくる。生徒の希望を実現できる体制をこれからも充実・発展させてほしい。 受験への気持ちの切り替えが難しい。教員や先輩の声がけがありがたい。
3	<ul style="list-style-type: none"> 将来、社会のリーダーとして活躍できる人材の育成を目指して、県の指定事業「未来を創造するリーダー育成推進プロジェクト」に全校を挙げて取り組んでいる。 全職員の共通理解のもと、学習指導と生徒指導を教育活動の両輪として全人教育の推進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 交通マナーなど社会規範に対する意識を向上させ、地域の理解を促進する。 高い部活動加入率を維持し学校行事、生徒会活動、奉仕活動へ積極的に取り組ませる。 社会のリーダーとして活躍できる人材育成の取り組みを継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な身だしなみ指導や登校指導、自転車運転マナーアップ講習、SNSなど情報通信の適切な使用に関する指導等を実施する。 部活動への積極的な参加を促して、文武両道を実践する姿勢を育む。 年2回の地域清掃活動等地域貢献活動を実施する。 学習指導委員会が中心となり、県指定事業の未来創造・リーダー育成プロジェクトを活用し、全校的な取り組みにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒指導の状況と生徒事案件数の検証。 生徒、保護者の学校評価アンケート結果。 地域貢献活動への参加状況。 各種イベントの参加率や生徒意識調査。 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導、自転車運転マナーアップ講習等を適切に実施した。交通事故件数は数件にとどまっている。生徒の身だしなみは概ね整っている。 初心者でも部活動に参加しやすい雰囲気があり、入部率は98%(+3)に向上している。 自治体と連携して新方川周辺の地域清掃活動を実施した。 未来創造・リーダー育成プロジェクト事業への24名参加し、県の海外短期派遣に2名参加した。また、海外短期派遣(カナダ)に13名参加した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 調和の取れた人間性の育成 未来創造リーダー育成プロジェクトによる学習指導の充実 リーダーシップを発した活気ある学校行事や部活動によるリーダー育成 教育相談活動による個に応じた指導の充実 生徒指導の充実 北高生としての品格と規範意識の醸成 SNS活用のモラルの育成 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の交通マナーは良くなっている。地域清掃や地域の防災拠点を担っていただき感謝している。校舎の外観にも手を加えていただくとうい。 SNS活用のための共通のルールづくりを生徒主体で進めるとよい。 近隣で外部から不審者が学校に侵入する事件が発生しているが、生徒も含めて危機管理意識を持つことが大切だ。 少子高齢化社会を支えるために社会のリーダーを育成することは急務である。今後も文武両道の精神で人材育成をお願いしたい。
4	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの更新システムが軌道に乗り、学校行事や部活動等のページが充実してきた。 土曜公開授業の機会をとおして開かれた学校づくりを推進するとともに、PTAとの連携により生徒募集に係る広報活動をさらに充実させ本校の魅力を広くPRする。 	<ul style="list-style-type: none"> 広報活動の充実により積極的に情報発信を行う。 生徒募集活動の時期や方法を見直し、中学生対象の各種説明会、土曜授業ミニ説明会を組織的に運営する。 	<ul style="list-style-type: none"> 特色ある教育活動や生徒の活躍をHPに掲載し、積極的に情報発信する。 土曜公開授業、学校説明会、中学校訪問の円滑な実施、進学フェアや塾等説明会への積極的な参加を推進する。 PTA・後援会、同窓会と連携して教育活動の充実策を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページの更新回数、アクセス数。 学校行事・部活動等の紹介状況。 生徒募集に係る各広報活動への参加回数。 中学生等参加者数、アンケート調査。 保護者アンケート。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページのトップページのレイアウトを刷新し、フラッシュニュースでタイムリーに情報発信した。しかし、更新が進まないページがあり、アクセス数9.7%減となった。 土曜公開授業でのミニ説明会には、延べ1500名参加した。また、PTAの協力で受付や保護者のスピーチを導入した。 同窓会と連携して学校支援の体制づくりについて検討できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒募集の充実 土曜公開授業の説明会の改善 生徒による説明会の継続 部活動見学会の実施 ホームページの改善 更新しやすい工夫のシステム化 地域と連携した奉仕活動 学年・生徒会に加えて部活動単位で取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開を利用して理数科の体験授業や部活動見学会を実施しもよい。 同窓会としてもこれまで以上に母校支援に力を入れていきたい。 ICTによる広報活動など積極的に取り組んでいる。ホームページ更新等で専門業者へ委託する事も考えられる。 施設設備が他校と比べて見劣りがあるが学校としての対応はできている。